

## 令和元年度第1回小牧市予防接種協議会 議事録

【日時】 令和元年 9 月 25 日（水） 14 時 00 分から 15 時 15 分

【場所】 保健センター 大会議室

【出席者】 委員 5 名

林芳樹、新原光喜、田中秀典、木村隆、山田祥之（敬略称）

事務局 5 名

伊藤健康福祉部次長、西島保健センター所長、野口補佐、余語予防係長、吉村主査

欠席委員 1 名 谷口健次（敬称略）

【次第】

1 開会

あいさつ

2 議題

（1）平成 30 年度予防接種事業実績について

（2）令和元年度予防接種事業について

（3）風しんに関する追加的対策事業（風しんの第 5 期の定期接種）について

（4）BCG の個別接種化について

（5）高齢者インフルエンザの接種期間について

3 その他

4 閉会

【議事】

司会

本日は、ご多忙の中ご出席を賜りましてまことにありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまから小牧市予防接種協議会を開催させていただきます。

まず始めに委員の関係ですが、任期途中ではありますが、小牧市健康福祉部長の人事異動により廣畑委員に替わり山田委員が、新委

員に就任しております。

山田委員から一言申し上げます。

### 山田委員

4月に替わりました山田でございます。よろしくお願いいたします。

### 事務局

委員の出席状況ですが、本日欠席の連絡をいただいております小牧市民病院長の谷口委員でございます。この会議につきましても、公開となっておりますので、事務局で会議録を作成し、本庁舎にあります情報公開コーナー及びホームページにおきまして公開させていただきますのでご承知おきいただきますようお願いいたします。現在のところ傍聴希望者はありません。

会の開催にあたりまして、小牧市健康福祉部伊藤次長よりごあいさつをさせていただきます。

### 伊藤次長

健康福祉部次長の伊藤です。本日はお忙しい中、予防接種協議会にご出席いただきましてまことにありがとうございます。

実際に予防接種を実施していただいております医師会の先生方には、大きな事故等問題もなく実施いただき、重ねてお礼を申し上げます。

詳細は後ほど報告させていただきますが、小牧市では4月からロタウイルスワクチンの一部助成を開始いたしました。助成があるということで接種をされる方が増えていくことを期待しているところです。また、国の施策ではありますが、風しんの予防接種を受ける機会がなかった年代の男性に対し、無料クーポン券を発行し抗体検査・予防接種の実施を始めたところです。より多くの方に実施していただけるようPRに努めていきたいと考えています。

接種率の向上等に努め、市民の健康づくりの支援に取り組んでまいりますので、皆様方のより一層のお力添え、ご助言をお願いし、

開会の挨拶とさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。

### 事務局

それでは、続きまして林会長よりごあいさつをいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

### 林会長

まだまだ暑い中この会に、お集まりいただきありがとうございます。今年も第1回の小牧市予防接種協議会を開催させていただきます。それでは、よろしく申し上げます。

### 事務局

ありがとうございました。

これより議事に入りますが、議事進行につきましては会長にお願いしたいと思います。林会長よろしく申し上げます。

### 林会長

それでは、議題に入りたいと思います。議題(1)(2)「平成30年度予防接種事業実績について」「令和元年度予防接種事業について」事務局より説明をお願いします。

### 事務局

それでは、「平成30年度予防接種事業実績について」から説明させていただきます。資料の1ページをご覧ください。定期予防接種の実施状況です。

B型肝炎については、1回目対象者1,100名、接種者1,086名、接種率98.7%、2回目対象者1,100名、接種者1,090名、接種率99.1%、3回目対象者1,072名、接種者1,038名、接種率96.8%でした。

ヒブワクチンの初回接種完了ですが、対象者1,079名、接種者1,062名、接種率98.4%、追加接種完了は、対象者1,200名、接種者1,172名、接種率97.7%でした。

小児用肺炎球菌の初回接種完了は、対象者1,084名、接種者1,066

名、接種率 98.3%、追加接種完了は、対象者 1,200 名、接種者 1,160 名、接種率 96.7% でした。

4 種混合の初回接種完了は、対象者 1,140 名、接種者 1,126 名、接種率 98.8%、追加接種完了は、対象者 1,450 名、接種者 1,214 名、接種率 83.7% でした。

ポリオについては、1 回目接種者はありません。2 回目 2 名、3 回目 5 名、追加 19 名でした。4 種混合での接種が主であるため、接種者は少なかったです。

2 種混合については、対象者 1,466 名、接種者 1,220 名、接種率 83.2% でした。

続きまして資料の 2 ページです。麻しん風しん混合については、第 1 期対象者 1,184 名、接種者 1,133 名、接種率 95.7%、第 2 期対象者 1,391 名、接種者 1,278 名、接種率 91.9% でした。

水痘については、1 回目対象者 1,171 名、接種者 1,165 名、接種率 99.5%、2 回目対象者 1,195 名、接種者 1,144 名、接種率 95.7% でした。

日本脳炎については、積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方も対象に含みます。第 1 期初回完了は、対象者 1,531 名、接種者 1,378 名、接種率 90.0%、第 1 期追加完了は、対象者 1,878 名、接種者 1,439 名、接種率 76.6%、第 2 期対象者 2,444 名、接種者 1,807 名、接種率 73.9% でした。

子宮頸がん予防ワクチンは平成 25 年 6 月 14 日から現在も接種勧奨の差し控え中であり、予診票は定期的に発送はしていません。希望者のみ発送しています。接種者は 1 回目 5 名、2 回目 2 名、追加 4 名の計 11 名でした。

B C G 接種については、対象者 1,130 名、接種者 1,128 名、接種率 99.8% でした。コッホ現象事例報告書の提出が 3 件あり、いずれも接種時期は標準である生後 5 か月から生後 8 か月に接種されたお子さんでした。ツベルクリン反応検査は、3 件とも行ない 2 件が陰性、1 件が陽性でした。陽性であった 1 件の方は胸部レントゲンも実施しましたが、レントゲン上は異常ありませんでした。結果については医師の判断で異常なしとなっています。

インフルエンザについては、65歳以上の対象者 36,791名、接種者 17,810名、接種率 48.4%でした。

高齢者肺炎球菌ワクチンについては、対象者 6,065名、接種者 3,256名、接種率 53.7%でした。

続きまして資料の3ページです。接種者のうち再掲になりますが、愛知県広域接種事業で市外で接種された方、指定医療機関外の補助事業で県外で接種された方の人数を表にまとめましたので、参考にさせていただけたらと思います。

麻しん風しん混合の定期外予防接種についてですが、手続きをされ接種された方が、2歳以上年中児までの方が42名、第2期を接種出来なくて小学校入学後から7歳半未満までの方が27名でした。

高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種費用助成事業として、1,221名の方に上限5,000円の助成を行いました。昨年は252人で増加している理由として、平成30年度で助成事業は終了するため、未接種の方に対し、勸奨の通知を出したためと思われる。

おたふくかぜワクチン予防接種費用助成事業として、1歳以上就学前までのお子さんが対象で1,263名の方に助成を行ないました。

風しんワクチン予防接種費用助成事業として、抗体検査の結果ワクチン接種が必要と判断された方で、女性が227名、男性が46名に助成を行ないました。

予防接種特別再接種費用助成事業として、5名の方にヒブ・肺炎球菌・四種混合・麻しん風しん混合・水痘の接種を行ないました。

予防接種事故についてですが、接種間隔不足で3件の報告がありました。今年度は、これまでに1件の接種間隔不足の報告をいただいています。

続きまして、資料4ページ「令和元年度予防接種事業について」です。継続事業として、定期予防接種、定期外予防接種、愛知県広域予防接種、補助金交付、助成事業、アプリの提供を実施します。

新規事業としまして、ロタウイルス予防接種費用助成事業を平成31年4月1日接種分より助成を開始しました。7月までの実績として、1価ワクチンは269回分、5価ワクチンは510回分助成をしました。

情報として、9月13日に開催された予防接種基本方針部会で、定期接種化について議論がされ、1価ワクチン・5価ワクチンとも定期化されることが了承されたようです。今月末に再度専門部会が開催され、開始時期や対象者の検討が行われるとのことでした。

続きまして風疹に関する追加的対策事業として、平成31年2月1日に予防接種施行令が改正され、令和4年3月31日までの期間限定の事業として風しんの第5期の定期接種が開始しました。対象者は、昭和37年4月2日生まれから昭和54年4月1日生まれの男性で、今年度はその中でも国の通知により、昭和47年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性に対し無料クーポン券を送付し、抗体検査及びワクチン接種を実施します。8,901名に対し5月31日に送付をしました。昭和37年4月2日から昭和47年4月1日生まれの方でも今年度接種を希望されれば、無料クーポン券を個別に送付しています。令和2年度以降の無料クーポン交付者については、議題3でご意見をいただきたいと思っております。6月までの実績は抗体検査483名、ワクチン接種72名です。

議題1と2については、以上になります。

## 林会長

ありがとうございました。只今の事務局からの説明に対してご質問、ご意見ありましたらお願いします。

予防接種事故についてですが、これ以上減らせるような方法とかないでしょうか。何か考えはありますか。

## 事務局

昨年アプリを導入してからスケジュールについての問合せも少なくなりましたし、予防接種事故の件数も減っているのではないかと思います。保護者の方も医療機関の方も気をつけていただいているので、前年度より減っているため、このまま通知文等でお知らせをしながら実施していきたいと考えています。

## 林会長

毎年接種間違いなど報告書の提出がある特定の医療機関はありませんか。

## 事務局

毎年の医療機関の中にはあります。

接種間違いは医療機関から連絡をいただくケースもありますし、翌月に予診票のチェックをしている時に気が付くケースもあります。

## 林会長

ありがとうございます。現在手上げ方式で実施していますので、それで実施していると医療機関の精度が保たれないこともあり、ある市町村では、予防接種の講習会を年に何回か受けていただき、受けないと参加できないという義務を課しているところもあります。大変だと思いますが、そのことも頭に入れておいていただけると良いと思います。

それでは、議題 3 に入ります。「風しんに関する追加的対策事業について」という議題です。事務局より説明をお願いします。

## 事務局

議題 3 風しんに関する追加的対策事業について説明します。資料の 6 ページをご覧ください。

先ほど、議題 2 の今年度の予防接種事業の中で事業概要、対象者、実績等を説明させていただきました。

今回委員から提案事項として来年度の無料クーポン発行者を残りの生年月日の男性全てを対象とし、少しでも早期に抗体を保有してもらうことが必要と意見をいただいております。

市としましては、検査希望者が集中・混乱するリスクを避け、事業を円滑に開始する観点から、今年度の発送対象者を国の通知に基づき送付しました。2 年目の取り扱いは、特に国からの通知はなく、市町村での判断となった場合は、残りの生年月日の昭和 37 年 4 月 2 日から昭和 47 年 4 月 1 日生の方に対し、クーポン券を送付し、3

年目は未実施の方に再度通知をし、できるだけ多くの方に抗体検査及びワクチン接種の機会を提供していきたいと考えています。

国からの通知が来次第、検討しますが、今の段階で何かご意見あればお願いします。

#### 林会長

ありがとうございます。

早急に抗体価を上げるということで、残り全員に送るがどうかといことですが、委員の皆さんご意見ありますでしょうか。

#### 新原委員

早いうちに抗体をつけることは良いと思います。

#### 田中委員

幸い、最近当市民病院では、先天性風しん症候群のお子さんの出生はありませんが、いつ何時そういった患者さんが発生するかどうかの予測がつかないので、早く抗体をつけて予防ができればと思います。

#### 林会長

残りの対象者はどのくらいですか。

#### 事務局

資料を調べまして後から報告いたします。

#### 林会長

実際に受けられて抗体を調べた人が483人で、ワクチン接種が72人ですね。対象者に比べて少ないですね。

#### 事務局

PRが足りないのかもしれませんが、国保連合会を通して接種請求がくるため、2か月の時差があることから、クーポン券を発送して

から 2 か月分の集計になりますので、少ない状況です。

## 林会長

今の意見は早く抗体をつけたいということで、令和 2 年度は、残りの生年月日の全て方に送付するという事によろしいでしょうか。その他ありますでしょうか。無いようでしたら次の議題に入りたいと思います。

議題 4「BCG の個別接種化について」に入ります。事務局より説明をお願いします。

## 事務局

議題 4 BCG の個別接種化について説明します。資料の 7 ページをご覧ください。

この議題につきましては、去年の予防接種協議会におきましても議題とし協議していただきました。去年の協議会では、個別接種の方向で考えた場合、手技や接種後の乾燥を見届けるなど接種に関する研修会が必要であること。また、移行期間なく個別接種にするのか、併用実施にして混乱がなければ個別接種に移行するかなど今後検討が必要であり、適切な接種が出来ると確認したうえで開始することが望ましいという意見をいただいています。集団接種では、決められた日時で月 3 回と限られているため、接種間隔等に合わせにくい場合があるのが現状です。

市としての考え方として、保護者の方の利便性を考えると個別接種も有効であると考えます。資料の 10 ページにありますように、市内長期療養者への対応、愛知県広域事業で他市の方への対応を実施可能な医療機関が 13 医療機関ありますので、個別接種の実施が可能ではないかと考えます。

資料の 8 ページには他市町村の状況、資料の 9 ページには個別接種に移行した場合のメリット、デメリットについて記載させていただきました。市としては、かかりつけ医で接種してもらえる安心感、スケジュールを組みやすいことなどがメリットとしてあげられるかと思っています。

集団接種と個別接種を併用にする方法や、個別接種のみにする方法など、本年度も引き続き協議をお願いしたいと思います。

#### 林会長

ありがとうございました。BCGについてご意見ありましたらお願いいたします。昨年も協議しましたが新にもう一度事務局から提議がありました。事務局からは昨年までの意見の内容をまとめてもらいましたが、これ以上にご意見はありますでしょうか。新原委員いかがでしょうか。

#### 新原委員

他の市町村でも個別接種が進んでいますし、小児科以外の医療機関も多数参加しているようなので、小牧市でも個別接種に移行しても良いのではないかと考えます。

#### 林会長

個別化の方向で良いのではないかとということですね。田中委員いかがでしょうか。

#### 田中委員

個別化の方向になるかとは思いますが、多少接種率が下がるのではないかと心配です。今99%とか高い数字であります。下がる可能性はあるかと危惧しています。

#### 林会長

接種率は高いですが、他の種類の0歳児の接種とBCGを考えるとさほど下がらないかもしれません。木村委員お願いします。

#### 木村委員

市民にとっては、個別化の方がこれだけ予防接種の種類が多くなるといいと思います。集団接種で日時が決められるとかなり変更が難しいところがあります。個別化が市民にとっては利益が大きいと

思います。日本の BCG の管針法は独特の方法ですので、手技の徹底は必要だと思えます。乳児における結核性の髄膜炎を防ぐということが大前提ですので、0 歳児の早期の接種が望ましいことから考えると個別接種の方がいろいろな面で良いと思えます。手技の徹底を前提にして個別接種が望ましいと思えます。

## 林会長

ありがとうございます。山田委員いかがですか。

## 山田委員

医療機関が対応できるなら個別接種で良いと思えます。1,300 人ぐらい 0 歳児がいるかと思えます。13 医療機関で平均して実施するとして 1 医療機関 100 人ぐらいになるかと思えます。

市内 13 医療機関あるということでしたので。

## 林会長

広域化で手をあげているところですね。

## 事務局

広域と長期療養で実施する場合に手をあげているところになりますので、実際市内で実施することになるともう少し手をあげてただけるのではないかと考えてはいます。

## 山田委員

その辺りが問題なければ、良いかと思えます。

## 林会長

手技の精度をあげるには、どうするかと、個別化の方が受ける側が受けやすいというご意見がありました。取組みに関して 1,300 人ぐらいいるということですが、医療機関が増えれば対応できることですが、実際に近くの市町の話聞いてみますと、岩倉市の先生は、それほど混雑することはない、BCG だけの枠を取っているわ

けではない、予防接種の枠の中で実施している。ワクチンを乾かすのにスペースが必要であり少し困っているが、ここでは集団で実施している方法とは少し違う方法で実施している。乾かすのに少し時間かかりますよね。

#### 事務局

乾かすのに 5～10 分くらいかかります。接種後に 2 から 3 回針痕になすりつけますが、液が溜まって渴くのに時間がかかります。

#### 林会長

その辺の手技的なことをその先生は確認しながら実施しているようです。

#### 木村委員

小牧市は外国人の方が非常に多いですが、外国人に対する啓蒙というのはどうしていますか。外国人から打ち方などについての要望はありませんか。

#### 事務局

最近は特に要望等は無く、以前は、協議会でも出たことがありますが、足の裏に接種してほしいとか違う場所への希望がありました。最近はないです。

#### 林会長

個別化になると何かあるかもしれませんね。以前医院でやっていた時には違う場所に接種してほしいという希望がありました。

#### 山田委員

それは、痕が残るからということですか。

#### 事務局

半袖を着ると痕が出るからと言って嫌がった方もいました。中に

は日本人の方もいました。

#### 林会長

他にご意見はありませんか。

#### 木村委員

コッホ現象は日本人の方ですか。

#### 事務局

今回出ているのは皆さん日本人です。

#### 林会長

予防接種は手上げ方式というよりも、講習会を実施して参加していただくことを前提にすると先生方の意識も手技も向上する。BCGだけは講習会を実施することが良いのではないかと思います。実際にやっている尾張地区の医師会もあります。先週の日曜日に愛知県の小児科医会がありまして、話の中でBCGは尾張地区と三河地区をみると、三河地区の方が個別化が進んでいて、尾張地区は個別化は少ないです。豊田市とか岡崎市は接種する先生方の精度を保つために講習会を開いている。手上げ方式だけでは、接種医の質は保てないため、講習会を開いて手技等の話をしている。実施するにあたり接種する先生の質も上げないといけないので、そのあたりも考慮しつつ、準備が必要だと思います。隣の春日井市が考えているように少し準備期間を設けて進めていただけたらと思います。他に何かありますか。

#### 木村委員

結核というのは基本的に法律できちんと決められています。BCGの接種の方法や診断、治療に関しても法律で決められているので医師の裁量というのはあまりないと思います。手技にしても厳密に日本の場合はどこに接種してどういう間隔で接種してというのを決められているので、手をあげられた先生方はその辺を理解して、そ

こから逸脱しないようにすることが結核の予防診断治療の基本か  
と思います。

### 林会長

ありがとうございます。そのあたりを踏まえて事務局のほうで考  
えてほしいと思います。春日井市が計画を立てていますが、詳しい  
内容は知っていますか。江南市は併用ということですが。

### 事務局

担当レベルで話を伺っただけですが、江南市は令和2年の4月生  
まれのお子さんからと生年月日で区切って個別にすると聞いてい  
ます。春日井市については、検討は始めているが令和3年から始め  
ることが出来ればいいという段階です。

### 林会長

実際のところ医師会との話し合いは、まだということですね。他  
にご意見はありませんか。

### 木村委員

行政側としては、どちらが確実性を高めるというか、これだけ集  
団接種で実施しているところが多いというのは何かあるんでしょ  
うね。行政側としてメリットは何がありますか。

### 事務局

行政側としては接種率を維持していくという問題があると思  
います。メリットとしては、保護者の方の利便性を考えると個別接種  
の方がスケジュールも組みやすいし、かかりつけ医の元で接種する  
安心感だと思います。

### 林会長

尾張地区は小児科医が少ないとかワクチンに詳しい先生が少な  
いなどあるかと思います。瀬戸市は集団になっていますが、個別接

種になったのではなかったですか。

## 事務局

聞いたときにはまだ集団接種と言われましたが。

## 林会長

集団接種から個別接種に移行した地区の医療機関では、たくさん来るかと思っていいたら意外と少なかったようです。小児科も新原先生のところと志水先生のところしか手をあげてなくて、内科の先生も手をあげてらっしゃるので、手技とか法律的な知識とかしっかり覚えていただけるよう、講習会をやりつつ準備をしてから個別化という流れで考えていただけたらと思います。5年、早ければ2~3年くらいでしょうか、準備期間を設けていただけたらよいと思います。0歳児の接種で保護者の方の意識も高いため、集団接種でもこれだけの接種率がありますが、個別接種にしてどうかというところもあります。ご意見のとおり個別接種を考えていく方向でよろしいでしょうか。来年の協議会では、具体的な話がありいろいろな意見を出していただきたいと思います。

あと、コッホ現象のところで1名ツベルクリン反応検査で陽性でしたが、診断名とかわかりますか。

## 事務局

報告書をいただいている中では、非特異反応ということですが。特に内服治療等の記載はないです。

## 林会長

ありがとうございました。

## 事務局

先ほどの風しんのクーポン券の対象者ですが、11,297人になります。

## 林会長

それほど多くないですね。1.5倍か1.3倍くらいでしょうか。それでは、残りの方を一斉に送っていただく方向でお願いします。では、議題5「高齢者インフルエンザの接種期間について」にはいります。事務局より説明をお願いします。

## 事務局

議題5 高齢者インフルエンザの接種期間について説明します。資料の11ページをお願いします。愛知県では、お住まいの市町村以外の県内の医療機関でも定期予防接種を受けることが出来るよう、広域予防接種事業を実施しています。その広域予防接種事業における予防接種期間は、各市町村の接種期間とされていましたが、令和2年度から県内で接種期間を統一し、10月15日から1月31日までとすることになりました。

小牧市では、高齢者インフルエンザの予防接種期間は、流行の時期を考えて、例年10月15日から12月31日までとしてきましたが、接種者の混乱を防ぐため、来年度以降は市内での接種も広域予防接種事業の接種期間に合わせる考えであります。

県からは、今年度についても可能な限り広域での接種期間の統一を図りたい旨の依頼がありました。

市としては、今年度の接種期間について既に、ホームページ及び広報で周知が済んでいます。接種終了を1月31日に変更する旨を11月1日号広報に掲載したいと考えています。ご意見をお願いします。

## 林会長

ありがとうございます。高齢者インフルエンザの接種期間についての提案です。いかがでしょうか。12月31日までを県の広域化に合わせて1月31日までとしたいということです。県の方からも依頼があったということです。通知するだけですよね。例年ワクチンが足りる足りないといういろいろな話が出ていますが、実際はどうでしょうか。

## 新原委員

昨年と一昨年は、ワクチンの供給が少なくなった為、途中で新規の予約を締め切るということになりました。実質的には1月に接種をする人は少なく、12月に接種予定で風邪で接種出来なくて、1月に接種をしたという方がほとんどです。今年のワクチンの供給は去年よりはいいという卸業者からの話もありますが、検定が落ちたりとか色々ありますので、ワクチンが足りるかどうかわかりません。この2年間くらいの傾向をみると、ワクチンの生産はぎりぎりです。年末になるとワクチンを卸業者に頼んでも無いと言われて、新規の予約を断らざるを得ない場合があります。1月末まで接種期間を延長するのは構わないですが、なるべく早く医療機関に対して予約をされるよう市民の皆様に周知していただくようお願いいたします。

## 林会長

田中委員いかがでしょうか。

## 田中委員

インフルエンザは人数の制限をさせていただいていますので、院内でワクチンが足らなくなったということは昨年度はありませんでした。流行はまだですが、この週末には豊山の方でインフルエンザのAの患者さんが出ています。散発的に患者さんがこのあたりでも出てきています。

## 林会長

私の医院も去年もその前も無いということは無かったです。年末になってくるとそういう情報が毎年出ますが、実際は無いいながらも待っているとあるようですね。期間を延長しても問題はないかなと思います。

## 林会長

木村委員どうでしょうか。

### 木村委員

1月末日まで延ばすのは、その方がいいと思いますが、個人的な印象なんですけど、今の時期は暑いですが、感染症情報をみているとインフルエンザが出てますよね。個人的にはあと2週間前倒しにして10月1日からでもいいんじゃないかという印象はあります。意外と暑いからあまり気にされていない方が多いと思いますが、結構インフルエンザが出ていますよね。

### 林会長

たしかにインフルエンザが出ていますよね。早めるのは早めてもいいですが、メーカーに聞いたのですが、先週には発注しているが、入荷はまだで、入荷に関しては遅れることもあって、実際には1日に間に合わない医療機関もあり、10日以降くらいから始めている。早める分には入荷とかの関係がありますが、早いところだと9月末から接種を始めているところもある。とりあえずは、1月末日まで延ばしていただければよいかと思います。山田委員はいかがですか。

### 山田委員

特にはないですが、ワクチンの供給さえあれば、問題ないと思います。

### 林会長

ホームページ上で周知していただき、1月末日まで対応していただけるようにしていただくよう思います。

他にありませんでしょうか。

無ければ他に協議事項ありませんでしょうか。

### 事務局

1つ報告があります。

子宮頸がん予防接種につきまして、小学校6年生から高校1年生

の年齢に相当する方を対象に定期予防接種として実施していますが、副反応被害が相次いで報告されたことを受け、厚生労働省は、十分な情報提供ができるまでの間、接種の「積極的勧奨」を一時的に中止し見合わせています。

本市では、現在、市ホームページにて、定期接種であることと、あわせて厚生労働省の発行のリーフレットを掲載し、ワクチンの有効性とリスクについて案内をしています。接種希望の連絡をいただいた方につきましては、予診票を送付して、医療機関で接種していただいている状況です。

先日、新聞でも取り上げられましたが、勧奨ではなく、お知らせとして個別に通知を独自に出している市町村があります。この件について市民からも問合せが数件ありました。

小牧市では、今後も引き続き、国の通知に基づき対応していきたいと思いますが、独自で通知している市町村の情報収集もしていきたいと考えています。

## 林会長

ありがとうございます。子宮頸がんワクチンについてのことが、どうでしょうか。

## 新原委員

難しい問題ですが、関心自体も薄れてしまい知らない間に接種期間が過ぎてしまう方がたくさんいらっしゃいます。ワクチン自体、定期接種であることが、保護者の方の頭の中から消えてしまっている状況にあるかと思います。定期接種に入っているということで、お知らせをすること自体は、悪いことではないと思います。

## 林会長

田中委員はいかがですか。

## 田中委員

最近質問もされることがなくなりました。関心がないのかなあ

と感じています。

**林会長**

勧めることはありますか。

**田中委員**

こちらから勧めることはしていません。

**林会長**

質問があれば答えるという感じですか。

**田中委員**

答えはしますが、どういう答えをしたら良いのか、自分でも整理ができていないです。

**林会長**

厚生労働省の渡すリーフレットについて聞いたのですが、かなり恐ろしい内容が書いてあって、実際ある市町村で先生が「市役所で書類をもらって来て」と言っていて、保護者の方が書類をもらいに行って渡されたリーフレットを見て接種をやめましたという話を聞きました。被害について等書いてあるんですけども、こちらにもそのリーフレットはありますか。

**事務局**

今ここにはありませんが、ホームページ上ではリーフレットは見れるようになっています。

**林会長**

厳しい内容が書いてあります。その先生の意見ですが、ほぼ安全なワクチンですが、結局のところ結論は市町村レベルの話ではなくどうしようもないのではないかという意見がありました。

啓蒙は、しなければいけないと思いますので、お知らせを出して

いる市町村が三河の方だと思います。医療側としては現時点での情報をいろいろ伝え、危険なワクチンではないと話をして、実施する市町村側が負の話をすると、結局接種をされる方がほんとに少ないと思います。全国的にも少ないです。その辺りを考えていかないといけないと思います。勸奨の控えですが、定期接種であるので、接種をしなければいけないだろうし、お知らせをしていただいたうえで、問題がないというところを強調していただくようなパンフレットとかあればいいのですが。私も探してみます。

### 事務局

安全面についてはホームページ等で周知していますが、いろいろな質問があった時に主治医の先生とよく相談をしてくださいと言ったことがあります。委員の先生方は小児科医として良くご存知かと思いますが、予防接種を実施していただいている先生は手あげの先生ですので、同じように説明ができる講習会が必要なのかなとも思いますが。

### 林会長

そのあたりは、講習会が必要かと思います。講習会を実施していただくのも一つだと思います。医師会でも生涯教育の中で時々ワクチンについて話をすることもあります。時間が短いのでじっくり聞いていただくためには、どこかで大きいスペースを確保して、医療機関のスタッフも含めた講習会を開けるといいと思います。前にありましたよね、あいち小児医療センターの山崎先生に来ていただいていた講習会。あのような講習会を開いて、子宮頸がんワクチンの啓蒙の話をしていただいてもいいかと思います。どんな先生がいいとか、相談がありましたら言ってください。

### 新原委員

先ほどのリーフレットの話ですが、子宮頸がんワクチンについて質問を受ける場合に、思春期の女の子が対象になりますので、ワクチンについて、きちんと納得をされて接種をされるのが大事だと伝

えています。接種をする本人も納得していただきたいです。中学生であれば、ワクチンについて、理解できる年齢です。ただ中学生の女の子に接種する意味、副反応についていかにわかりやすく説明をするのが難しいです。保健センターで保護者向けのリーフレットだけではなく、お子さん本人がわかる言葉で書いてある説明書がほしいなと思います。それを作っていただけるとありがたいです。

## 事務局

検討して作成していきたいと思います。

## 林会長

他にご意見はどうでしょうか。

## 木村委員

このワクチンは有効なんですけど、今の状態は不幸な状況としか言いようが無いんです。接種をする先生と相談してと言われてもこれだけネガティブなデータが日本である中で、積極的に外国のように勧奨するという状況にはなっていない。長い目で見れば有効なワクチンですが、接種する先生が積極的に勧めるかということ今の日本の状況からいくと、それは勇気がいることなんです。良く相談してくださいと言われても、積極的に接種するように勧めるのか、いろいろ言われている副反応のことが頭をかすめると、先生も止めておこうかということになる。それが非常に今の日本の不幸としか言えないところです。外国では接種率が全然違います。日本以外の国と日本と比べるとデータが歴然です。ただ、今の状況で積極的に各先生が勧めるかということそういう状況にはなっていないということです。

## 林会長

ありがとうございます。たしかにそれは木村委員がおっしゃるとおり、誰かがこうだと言わない限り変わらないですね。国が動かないとだめですね。

## 木村委員

ほんとに残念です。日本では本当に不幸なワクチンとしか言えないですね。子宮頸がんのワクチンの子宮頸がんに対する阻止率は高いんですよ。

## 林会長

子宮頸がんの20代30代の罹患率が増えている。前がん状態含めたデータだと過去10年20年くらいみて、ワクチンを接種すると効果があるというデータがある。

## 木村委員

子宮頸がんは若年化していますしね。20代の発生もみられます。予防できるなら予防すべきだと思いますが、ただ残念ながらということですね。

## 林会長

予診票は送れないですよ。

## 事務局

積極的な勧奨になってしまうのかなと思いますので、送るとしたらお知らせになるかと思います。

## 林会長

啓蒙は必要かと思います。啓蒙は新原委員の意見もありましたし、していただきたいなと思います。他にご意見はありますか。

## 山田委員

子宮頸がんの関係ですが、本市では20歳の女性にクーポン券を配布しており、30年度のクーポンの利用率が10.5%になりますので、周知をして受診率を高めて、子宮頸がんの抑制に繋がるのではないかと個人的には思います。

## 林会長

ありがとうございます。20代30代の子宮頸がんが増えていきますので、その前に予防ということでワクチンを接種しなければいけない。任意接種で実施していた時からのデータだと思いますが、30代の接種をした人としていない人と比べると接種した人の子宮頸がん罹患が少ない。いいワクチンではありますが、受ける側がどう理解してくれるかだと思いますので、そのあたりを啓蒙しなければ難しいと思います。啓蒙に力を入れていただきたいと思います。

他にご意見はございますでしょうか。協議したい内容がありましたら。ないようですので事務局にお返しします。

## 事務局

ありがとうございます。長時間にわたりご協議いただきありがとうございます。それでは、以上をもちまして第1回小牧市予防接種協議会を終了いたします。本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。小牧市では、交通事故が多発しております。お帰りの際は皆様十分にお気をつけいただきますようお願いいたします。本日は、誠にありがとうございます。